

完全破産した「本部」路線=千葉再建

日刊 動労千葉

80.7.27 全国版 NO. 60

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
電話二二五八一九(公衆電話三二七二〇七)

自らの失敗を、「全国大会決定」でごまかそうとする「本部」反動分子を徹底弾劾せよ！

全国の動労組合員のみならず、「本部」反動分子は、セクト的利害のためにのみ行った「千葉地本排除」→「動労千葉破壊」策動が、当然にも破産したことに追いつめられ、8月全国大会へ向けて、デマの上にデマを積み重ねた「再建」をデッチ上げようとしています。



昨年全国大会の「7名」を一步も出ない「再建」の実態

追い詰められたあげくに「業務再開」のペテン

動労千葉と「本部」反動分子の運動と闘いの正否は、今日、反動分子の言う「再建」が昨年全国大会に参加した「7名」を一步も出していないという実態によって何よりも鮮明に示されています。

動労千葉が、昨年「三・三〇結成」以来、「四・一七津田沼」をはじめとするいかなる暴力にも屈せず組織を守り抜き、当局、「本部」一体となつた選別的な不当処分をはね返し、権力・当局に対し一步も退かずに闘い抜いていることは、今後のあるべき労働運動の姿を示してあまりあると言えます。

動労千葉の闘いを支持し、激動の八〇年代を動労千葉のように闘おうとする新しい戦闘的潮流は、動労内外で、「三里塚を闘う労働運動」を合言葉に、総評、社会党をはじめとする全国の労働組合や地域住民団体の中へ確実に拡大しています。

当然にも破産した「再建」大会

このような情勢の中で、8月全国大会を目前に焦りに焦る「本部」反動分子は、弱い立場にある「短期転勤者」を脅迫し、運動的展望を何もたないまま「千葉はわれわれをかわないが、東京の松崎は『佐倉の親分』と言って下にもおかないでもてなしてくれる」ということのみで仲間を裏切つた土屋幹等と東洋大学生革マルのスパイ・嶋田とをゴツタ煮的にませ合せて「再建」をデッチ上げようとした。

しかし、「千名」を動員し、八級委員長が参加して七月五日、津田沼で「再建」大会をやる」と豪語し、全員に年休を申し込ませ、講習室の使用申

し入れまでやっておきながら、動労千葉全組合員の怒りのすさまじさの前に、短期転勤者総体が、スパイ分子嶋田から完全に離反してしまい、六月二八日、七月五日と、二回とも破産してしまつたのです。

この事態に、さらに追いつめられた「本部」反動分子は、動労千葉地本としての規約・規則に基づいて開催された機関(大会)の中で確認された「動労千葉の結成」という事実を目をつむり、「業務再開」なる珍奇な理屈をもって、全国の動労組合員をギマンしようとしています。

再登録も行わず「誰が組合員であるか」を確定しないまま、土屋、嶋田等しか知らない「役員」をデッチ上げ、「当局に『交渉』をお願いする」という「業務再開」のペテン路線が、職場、生産点はもとより社会的にも法的にも認められないことは当然であります。しかし、「本部」反動分子は、この規約・規則無視のデタラメさと、動労千葉は「反社会的、ゴロツキ集団」と規定し、「四・一七津田沼」への襲撃行為は労働組合として当然であるという革マルセクト方針を、「全国大会決定をもって正当化しようとしているのです。」

「本当のことを言えない」「陰然たる暴力が支配する」全国大会を、見せかけだけの「戦闘性」と「派閥の弊害をのりこえよう」という言葉の裏で画策し、その「大会決定」をもって「千葉再建」をデッチ上げようとするデタラメは断面粉砕されなければなりません。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

